

# 葛飾通勤寮実績報告

平成 27 年度

社会福祉法人 原町成年寮

## 東京都葛飾通勤寮 平成 27 年度事業実績報告

### 一 総括

今年度の利用者の動きとしては、入寮が男子 8 名・女子 5 名の 13 名、退寮は男子 12 名・女子 4 名の 18 名に上った。昨年度より入退寮ともに増えている。入寮者の増加は、今年度から就労移行支援事業利用者も企業就労可能と判断し、対象者に加えたためである。一定の生活支援があれば企業就労可能な方々のニーズが高いことが示されている。児童養護施設から児童相談所の一時保護施設を利用していた男子を 18 才になり児童福祉法の対象でなくなることを理由に入寮依頼があり、学籍がありながら入寮させた。幸い、法人内就労移行支援事業所を利用し、企業就労に取り組むことになった。また児童施設出身の女子 2 名は精神的に幼稚で発達障害もあり、就職したものの社会性が伴わず、様々な定着努力にも係わらず、退職となってしまった。在学中から就労するための生活リズムが整っていなかったにも係わらず、企業就労以外の選択肢が無かったことがこの結果に繋がっていることは明白で、当事者に負担を強いる結果になった。利用期限のない居住の場（GH）で再出発を目指すこととなった。

就労移行支援事業所利用者の内 3 名は家庭状況から生活保護を受給せざるを得ない結果となっている。

特別支援学校との連携を掲げ、今年度城東地区の特別支援学校進路担当教諭と意見交換を実施して、卒業式に参加するなどの働きかけを行った。在宅からの入寮希望者も徐々に増えて来ているが、大幅増にはなっていない。

来年度、通勤寮新築移転・就労継続 B 型事業所の開設に合わせ、就労移行支援事業所と連携して一般就労を目指す方の支援に取り組む予定である。

### 二 利用者支援

#### 1 獲得目標

障害があっても社会に貢献できる人材を育てるということを大きな目標とし、4 つの獲得目標を掲げている。

##### ① ADL の自立

身のまわりのことを自分でやり、起床から就寝まで生活のリズムが確立する。

##### ② 経済的自立

就労が安定し、金銭管理ができる。障害基礎年金が受給できている。

##### ③ 社会性の獲得

他人と良好な関係がとれる。法令や社会規範を遵守した生活ができる。

##### ④ 精神的自立

ストレスに対処できて、精神的に安定する。

#### 2 獲得目標 4 点についての具体的取り組み

##### ① ADL の自立

TPOに応じた衣類の点検補充、居室整理日の設定、整理の援助及び代行を実施したが身辺に課題のある利用者が男女とも増えている。発達障害の女性利用者に対して、応用行動分析の手法を用いて生活支援に取り組んでいるが、2年目を迎え徐々に成果は現れている。

## ② 経済的自立

定期職場訪問による職場との調整、特別支援学校との連携、日常的な金銭ノートの点検などを実施した。今年度の入寮から就労移行支援事業所の利用者も受け入れることとした。総括の部分で触れたが、新卒で入寮した女子2名が中途退職した。

## ③ 社会的自立

男女別のミーティング、月1回の教養講座、自治会活動などを通じて、日常的にはたらしかけを行った。また、関東地区スピーチフォーラムへ参加している。

## ④ 精神的自立

余暇支援、日常の相談、オンブズマン等の利用、カウンセラーによる面談や脳波検査の実施などの具体的な取り組みを実施。カウンセリングは2名が通年実施した。

月1回のカウンセリング終了時にはカウンセリング記録をもとに、カウンセラーとの情報交換を行い、支援に活かしている。精神的自立の部分は4つの自立の中でも根幹なので、支援の比重は年々大きくなっている。

## 3 オリエンテーション

今年度は例年とおおり5月2・3日の連休を利用して実施した。新規参加者は6名。参加利用者は24名・職員10名計34名。通勤寮の支援の柱である4つの自立（生活・経済・社会・精神）について、あいさつ・みだしなみ・働くことの意味・健康の維持・コミュニケーション等について、職員からの講義の後、利用者自らの課題の確認のためのグループワークを行った。また、自治会役員の選挙を実施している。

## 4 プログラム全般について

通勤寮の利用者全員参加の全体行事としては、成人式・納涼祭・サマーキャンプがある。その他の行事については、なるべく利用者主体で企画・実施した。例年実施してきたGH利用者との合同スノーシュー旅行は、今年度からOB会行事となったので、新たに日帰りで自治会行事を行っている。

## 5 週間プログラム及び余暇支援

金銭（毎火曜日）・身辺（毎週金曜日）・自治会（月1回第4木曜日）・大掃除（月1回最終日曜日）教養（毎月第3金曜日）以外は希望者のみの余暇活動とした。

### ア 金銭学習

給与振り分け表を使っての収入と支出の学習を基に、生活費1週間管理者の支給のみの日・個別費用点検の日、振り分けの日を分けて毎週実施した。怠金管理ノートは毎日の点検を義務つけている。目標は必要な物が予算内で購入できるようになること、生活費ノートがつけられるようになることである。給与引き出しは原則利用者本人が実施し

ているが、困難な場合には職員が代行している。

#### イ 身辺指導

居室清掃・整頓については、月 1 回の大掃除以外に、毎週金曜日を身辺の日と決めて定期に実施した。また年末の大掃除を実施した。居室の整理を保てない利用者に関しては担当者を決め生活リズム表に反映させ、金曜日以外にも取り組めるよう支援した。

しかし、日常の身だしなみの声かけについては、課題も残った。清潔感や職場定着・社会生活に直結する問題なので根気強く取り組む以外にない。入浴・着替え・洗濯の一連の流れが身についてない利用者には点検ノートをつけてもらい、指導の徹底をはかった。

職員の声かけ自体に反発する利用者に対して、応用行動分析の手法を導入して取り組みを続けているが、2年目を迎え若干の向上が見られる。

#### ウ 性教育等の教養講座

##### ○ 男子利用者

男子ミーティングとして、原則月 1 回実施した。多年度は年数別に分けて主に人間関係をよくするためのコミュニケーションの方法やルール・マナーを中心に行った。また、隔月で梅田小学校の体育館を借りて運動を実施した。

##### ○ 女子利用者

新入寮 3 名を迎え実施した。話を良く聞くこと、批判をしないことを前提にグループワークの手法で実施した。夏を過ぎても就労が落ち着かない利用者があり、社会人としての心構え・継続すれば自身がついてくることなど、先輩からのアドバイスもあり内容としては良いものであった。

#### エ 調理教室

長期に係わって頂いたボランティアが家庭の事情で依頼できなくなり、8月から担当者が代わり、継続して月 1 回実施した。参加利用者は 2 名となっている。当番の一人が食材の購入からはじめ「昼ご飯の一品」をつくる形とした。

#### オ 夕食会・卒寮式

夕食会は原則毎月最終土曜日、グループホーム等への移行者が出た場合は、夕食会を兼ねて実施した。平日は勤務時間の関係から利用者全体で食事を摂ることがないので、全体を理解するよい機会となっている。卒寮式は利用者にとって、通勤寮の指導を終了し新たな生活への旅立ちの儀式であり、利用者の大きな目標となっている。

## 6 余暇活動の支援

### ○ ソフトボール・フットサル、等の法人内クラブ活動への支援

ソフトボールクラブは地元の連盟に加盟、リーグ戦に参加した。フットサルクラブも定期的に対外試合に参加して、定着してきている。法人のバスケットボールクラブが高齢化のために解散したので、あらたに GH 通勤寮センターの利用者を中心にクラブを立ち上げ、月 2 回梅田小学校の体育館を借り練習している。

### ○ サマーキャンプ

8月9・10日に千葉県勝浦市のオートキャンプ場で実施した。利用者 26 名・職員 8 名計 34 名が参加した。台風の直撃が心配されたが、幸い日中は雨も降らず、大いに体動か

すことができた。近隣の水族館見学を合わせて実施した。

#### ○ 班旅行

今年度は例年とおり、利用者主体で4班に分かれ10月の連休を利用し実施した。

#### ○ 納涼祭

利用者の職場の方に対し通勤寮への理解を深める目的で、中庭を使い7月20日に開催した。今年は利用者が勤める17事業所の関係者35名が参加した。利用者自治会が中心となり運営した。利用者が勤める職場に通勤寮への理解を深めて頂く良い機会となった。今年は、葛飾・足立・しいの木特別支援学校の先生方にも参加してもらい、企業の方ともつながる機会を設けることができた。

#### ○ 正月旅行

正月に家庭の事情で帰宅できない利用者を対象として、今年も大晦日から1月2日までの2泊3日、利用者11名職員3名の参加で長野県飯田市方面に出かけた。今年度も通勤寮が支援するグループホーム利用者17名との合同旅行の形をとった。

#### ○ 成人式

今年度は1月16日に開催。該当者は男子2名・女子2名だった。近年特別支援学校新卒者が入寮してくる場合が多いので、成人式は大きな行事となっている。今年は今までお世話になった方からのメッセージビデオを作成し、保護者から好評だった。式終了後全員で餅つき大会を行った。夜は成人者職員有志で外食に行き、初めてアルコールをたしなんでいる。

### 7 個別支援計画と個別記録の作成

今年度は様式を変更して、昨年よりは円滑に作成しやすくなった。利用者によっては生活が落ち着かず、作成まで時間を要したり、本人の希望を聞いても応えられない利用者がいた。今後の課題としては、相談支援事業所の作成したサービス利用計画とのより有機的な連携であり、スムーズな入寮・退寮に繋げていければ良いと思う。

### 8 職場定着支援

今年度は離職者2名で再就職はかなわなかった。また、就労移行支援事業所利用者が5名いる。離職者はいずれも女性で本年度新卒者である。精神的な幼さがあり、働くということに対する心の準備ができない状態のまま、制度の仕組み上就労せざるを得なかったことや、企業とのマッチング・職場の理解度が進まなかったことが原因と思われる。

今後通勤寮は企業就労にチャレンジする就労移行支援事業利用者も含めて対応する予定であり、企業就労するための生活支援を強化していく。

### 9 地域移行支援

今年度は在籍3年目以上の利用者を対象に行った。通勤寮の行事にグループホームの利用者や職員に参加してもらい、GHの生活の様子を知る機会を作った。結果、男子10名・女子4名のグループホーム移行が実現している。法人内グループホームだけでは利用者の希望に応えられないので、実施機関と連携し、本人の希望に添った形でNPO法人が運

営する GH ユニットにも移行できた。来年度は GH の体験も可能なよう、早めに準備を進めて行きたい。

#### 10 6カ所のグループホームの運営支援

かつしかセンターの6つのユニット（通勤寮センター）の運営支援を担当した。通勤寮支援員が支援に携わることによって、通勤寮利用者のより円滑な地域移行を実現する目的があるが、今年度は通勤寮新規利用者の支援に忙殺されることで、職員の余裕がなく、通勤寮利用者OB会（メモリーの会）の支援やアフターケアに留まったが、合同会議を開催することにより、グループホーム利用者の支援上のアドバイスをを行うなどの点で可能な限り、連携している。

#### 11 利用者健康管理

○7月・12月の年2回健康診断を実施したほか、インフルエンザの予防接種を11月12月と2回に分けて実施した。感染者は出さずにすんだ。

##### ○健康管理の取り組み

昨年度から引き続き肥満・脂質異常・糖尿病・食事内容に工夫が必要な利用者に対し、取り組みを実施した。取り組みを継続している利用者は、おおむね体重の維持減をもたらしている。

##### ○服薬管理

現在、事務所の服薬表で管理している利用者は、てんかん2名・糖尿病1名・高中性脂肪1名・アトピーアレルギー2名・向精神薬3名となっている。

##### ○重篤利用者の対応について

心臓病の既往症があり糖尿病の治療中、吐血・下血があり12指腸潰瘍で入院した。入院中の医院では様子見だったが、入院先で敗血症と診断され入院となった。その後肝臓がんも発見され、現在治療を続けている。病状の変化によってはADLが低下する恐れもあるが、最善を尽くしていきたい。

#### 12 自治会活動への支援

今年度は役員の上候補を募り、会長・副会長・書記の3名を選任した。月1回定例開催したが、担当職員と自治会役員との連携が不十分だった。自治会の議題は行事への係わりと寮生活の見直し・改善への話し合いが中心となった。行事への係わりとしては、納涼祭・キャンプ・成人式の各行事について役員を中心にとりくんだ。スピーチフォーラム（関東地区通勤寮利用者集会）には役員を含めて8名が参加した。

#### 13 利用者預り金管理及び日常の金銭処理

法人からの貸付金（寮生会計）について、不明金を最小限に抑える工夫を実施した。利用者現金袋の管理代行については、個別残高の把握と安全管理を徹底したが、給料振分者以外の利用者の現金管理については、定期的なチェックが後手にまわることもあった。預り金の総額は昨年度ほぼ同額の5千9百万円となっている。

### 三 利用者の現況

#### 1 利用者の状況

○平均年齢は男子は24才3ヶ月、女子は20才4ヶ月で、男子は4才下がり、女子は前年と同じとなっている。男子の平均年齢が下がったのは3年以上の利用者が退寮し、利用者が入替わったためである。女子が同じなのは3年で利用者が入替わっており新卒者の入寮が主になっているためである。全体の平均年齢は22才9ヶ月で、昨年より4才下がっている。特別支援学校体験入寮事業を実施しているが、若干新卒者の入寮が増えている。

○入所期間の平均は一昨年が2年2ヶ月、昨年が2年5ヶ月、多年度は1年4ヶ月となり、昨年度より1年1ヶ月減っている。男女とも入れ替わりの時期となり、16名が退寮している。標準利用期間2年の利用者が増え3年以上の利用者はなくなった。

○利用者在籍の平均は、1昨年30名、昨年29.2名、多年度は25名と特に男子が定員を大幅に割ってしまっている。充足率は昨年の84%より更に下がって72%になっている。13名が入寮したが退寮が16名おり、標準利用期間2年の利用者(3年間だけしか利用できない)が増えて来ている現状を反映している。

#### ア 障害の程度 (平成28年4月1日現在)

	男	女	計
愛の手帳 3度	1		1
同 4度	15	8	23
その他	精神	B-1 (山梨)	1
計	16	9	25

#### イ 年齢別構成 (同上)

	男	女	計
15歳以上20歳未満	4	4	8
20歳以上30歳未満	10	5	15
30歳以上40歳未満	1		1
40歳以上	1		1
計	16	9	25
平均年齢	24.3	20.4	22.9

#### ウ 利用期間状況 (同上)

	男	女	計
1年未満	9	5	14
1年以上2年未満	3	2	5
2年以上3年未満	5	2	7
3年以上			
計	16	9	25
平均	1年4ヶ月	1年2ヶ月	1年4ヶ月

エ 保護者の状況（同上）

	父母あり			父母なし		なし	合計
	両親	父のみ	母のみ	兄弟	他		
男	5	5	4	1		1	16
女	2	1	3	1	1	1	9
計	7	6	7	2	1	2	25

オ 平成 27 年度利用者在籍状況（当月中）

	男			女			在籍合計
	入寮	退寮	在籍	入寮	退寮	在籍	
4		5	15	2	1	9	24
5	1	1	15	1		10	25
6			15			10	25
7	2	1	16			10	26
8	1	1	16		1	9	25
9	1		17		1	8	25
10			17			8	25
11			17			8	25
12	1		18			8	26
1	1	1	18		1	7	25
2			18			7	25
3	1	3	16	2		9	25
合計	8	12	198	5	4	103	301
			16.5			8.6	25

カ 平成 27 年度入寮先

	家庭	児童施設	養護施設	更生施設	G.H	自活	その他	合計
男	5		1		1		1	8
女	3		2					5
計	8		3		1		1	13

キ 平成 27 年度退寮先

	G.H	家庭	自活	更生施設	結婚	職場寮	その他	合計
男	10	2						12
女	4							4
計	14	2						16

2 利用者の就労状況（平成 28 年 4 月 1 日現在）



平成 27 年度の失業者は新卒者の 2 名。いずれも精神的に未熟であったが、企業就労できなければ通勤寮入寮ができないという条件の中で無理して就労させた感は否めない。その結果不適応状態を招き、退職となった。一方、就労移行支援事業所を利用して企業就労にチャレンジする方々も積極的に受け入れた。

平均賃金は 3 月末で男子 139,000 円女子 128,000 円だった。前年に比べ男子がほぼ同額、女子は 10,000 円下がっている。最近の払いの考え方は、最低賃金を基準とする事業所と高卒を基準にするところと 2 分されてきている。この傾向は大手特例子会社でも変わらない。また、勤務時間が社会保険適用ぎりぎりの事業所もあり、家賃が免除される通勤寮だから生活できている利用者もいる。これらの利用者は基礎年金等の公的な保障がないと、今後の地域移行が困難になる。(平均勤務時間による毎月決まって支払われる賃金の総額(基準賃金)で算出)

#### ア 利用者の賃金形態

	月 給	日 給	時 給	合 計
男	8	2	3	13
女	1		4	5
計	9	2	7	18

#### イ 社会保険の有無

	社 保	雇用のみ	なし	合計
男	12	1		13
女	4	1		5
計	26	2		18

#### ウ 月額平均賃金(基準額)

	50,000 ~69,999	70,000 ~99,999	100,000 ~149,999	150,000 ~199,999	200,000 ~	合計
男		1	9	3		13
女		1	3	1		5
計		2	12	4		18

#### エ 職種

職 種	男	女	合計
食 品 加 工	1		1
販 売 補 助	3	1	4
食 堂 補 助	1	2	3
事 務 補 助	1	1	2
清 掃	3	1	4
物 流	3		3
介護保険事業所	1		1
就労移行支援事業	3	2	5
失 業		2	2
合 計	16	9	25

## 四 体験入寮・短期訓練事業

○短期訓練事業（特別支援学校卒寮者・在宅者対象）

平成 27 年度は男子 9 名・女子 1 名、延べ日数は 220 日で、前年より大幅に増えた。通勤寮入寮を前提として希望された方が多く、10 名中 7 名が入寮ないし希望している。

○体験入寮事業（特別支援学校生徒対象）

地元特別支援学校進路担当教諭を窓口として、前年同様 1 年間を 3 期に分けて受付を行い実施した。今年度実績は男子 8 名・女子 3 名で、延べ日数は 84 日で昨年より 40 日ほど減少している。一昨年が男子 15 名・女子 7 名、のべ日数 216 日なので、一昨年より大幅減少している。物件の老朽化・個室がないなどの理由が挙げられる。移転新築により、利用希望者の増加を期待したい。今年度はその内 3 名が入寮している。

体験入寮・短期訓練事業とも通勤寮の地域貢献及び利用者の確保対策として重要な事業である。

## 五 給食

### 1 衛生管理

○ノロウイルス、感染症予防対策として、標語の掲示やポスターで呼びかけた。食事前手洗いやうがいの励行を呼びかけた結果、寮内での発生を防げた。配膳前の除菌として、テーブル・食器棚・ショーケースなどにアルコール消毒を実施している。食堂・厨房内の清掃も同様に 2 ヶ月に 1 回の定期清掃を実施した。害虫駆除も年 2 回実施した。

### 2 食事支援と献立

○栄養士との献立検討会を月 1 回行い、利用者の好みを取り入れた献立作成とバランスの良い食事提供を心がけた。嗜好調査・残滓調査を実施し、その結果少しづつ食べ残しが減ってきたので、これからも粘り強く声かけをしていく予定である。

○毎月の食事会、納会、成人式の餅つきなどの各行事の食事は、利用者からの希望もあり、これからも継続していく。

## 六 保護者との連携・広報

保護者会を 5 月・6 月・7 月・10 月・11 月・2 月（保護者会新年会に替える）・3 月と実施した。9 月には個人面接を実施した。10 月には、勤続 3 年未満の職員も含めて、法人評議員の弁護士を講師として成年後見制度についての学習会を開催した。

法人広報誌（原町かわら版）は年 2 回発行した。ホームページの保守は、定期的なりリニューアルを実施し、事業計画・報告書を改定するとともに、ブログを設け、行事等の動きを伝えた。

## 七 地域関係・防災

## 1 地域との関係

利用者はすでに個別に地域と関わっており、通勤寮に近隣の方を呼ぶための特別な行事については必要性はないと判断している。納涼祭では利用者の職場の方をお呼びし、理解を深めてもらった。

## 2 防災訓練その他

毎月の避難訓練と班ごとの防災館体験ツアーを実施した。毎月の防災訓練では、日中・夕方・夜で時間を変えて行った。避難訓練の動きとしてはスムーズに行えた。防災館見学では、班ごとに日程を決めて、漏れないよう実施した。

訓練ということで、緊張感に欠けるとこともあった。またどの職員も避難訓練が行えるよう、体制を考慮していきたい。また、防災計画（帰宅困難者対策）を改定した。

## 八 その他の活動

### 1 苦情解決事業

毎月 1 回第三者の苦情受付委員（オンブズマン）に来て頂き、利用者からの訴えを聞いていただいた。対話の内容を苦情以外の対話ノートに記述してもらい、利用者の状況把握に役立てている。苦情案件はなかった。

### 2 利用者への虐待防止対策

虐待防止対応規定により、主任以上で虐待防止委員会を組織し、年 3 回開催した。また指導会にて必要な情報提供をおこなった。虐待防止職員セルフチェックシートを配布し啓蒙している。

### 3 福祉サービス第三者評価

評価機関を替えて多年も実施した。

今年度の指摘としては、利用希望者増加に向けた取り組み、職員の人材育成方法についての提案がある。評価点としては、虐待防止に関する取り組み・個別支援計画の充実・法人内就労支援システムとの連携が挙げられている。

### 4 個人情報の保護

個人情報保護規定に基づき、個人情報の保護に努めるほか、利用者の必要な個人情報の提供については、入寮時に情報提供同意書を全利用者から頂き、対応している。

### 5 リスクマネジメントに関する取組

今年度のヒヤリハット及び事故報告は投薬に関するもの 1 件・一時不明 1 件・金銭管理に関する報告 2 件・さいわい事故にはならなかったが物品紛失が 4 件と比較的多かった。指導会において毎回議題として採り上げ、原因究明と対策について討議してきた。

引き続き指導会で採りあげてリスクマネジメント体制の強化をめざしていく。

## 九 新寮移転の進捗状況

国庫補助協議は不採択だったが、8分の7都助成が決定したので、一般競争入札を実施、11月に施工業者を決定した。平成28年2月より工事に着工している。併設する就労継続B型事業所の立ち上げのために、開設準備室を設置し、定例会議を開催している。平成28年度当初は、製パン技術習得のために、準備室担当職員を長期間研修に派遣することとした。

## 十 職員状況

### 1 健康管理

常勤職員は年2回、交代勤務のない非常勤職員は年1回健康診断を義務づけ実施した。再検査を指摘された場合の受診の有無について、徹底するよう指導した。

### 2 メンタルヘルス・ストレスチェック等の体制

法人内衛生委員会に担当者を派遣し、メンタルヘルスについての情報を提供している。法令により平成28年度よりストレスチェック制度を導入することが決定している。

### 3 育児のための深夜業の制限適用・休暇取得および勤務の状況

○ 就業規則による育児のための深夜業の制限を適用して、引き続き職員1名を宿直業務から除外している。

○ 時間単位年休取得制度を導入した結果、有休が取得しやすくなっている。今年度は新入寮生の職場定着指導や入退寮業務に忙殺されることが多く、有休取得の平均は前年の5日4時間から4日3時間に減少している。年末年始・夏季休暇については取得できている。有休休暇取得率平均は11%となっている。

### 4 研修・他機関との連携・実習生の受入等

#### ア 実習生の受け入れ

今年度は福祉系大学から2名を受け入れた。

#### イ 他機関とのネットワーク及び職員派遣

地元関係機関との連携では、葛飾特別支援学校評議員・葛飾区就労支援ネットワーク・（仮称）葛飾区福祉を学ぶ会へ職員を派遣した。

関係団体への職員派遣については、東京都社会福祉協議会・東京都発達障害支援協会 東京都生活サポート協会・全国知的障害者福祉協会地域支援部会へそれぞれ役員として施設長を派遣した。

#### ウ 外部・自主研修への参加

○ 外部研修

全国通勤寮職員研究大会	4名	東社協グループホーム世話人等研修	4名
関東地区通勤寮職員研修	3名	てんかんセミナー	1名
福祉協会全国大会	1名	SST研修	1名
福祉協会地域支援セミナー			4名
同グループホーム研修（実践報告）			1名
職業リハビリテーション研修			3名
東社協利用者支援研究会東北研修			2名
東社協地域支援分科会（6寮研修）			2名

○ 系統的な人材育成計画の実施

運営法人が企画する系統的職員研修に派遣

- |                      |          |      |
|----------------------|----------|------|
| ①新任研修                | 1名       | 通年実施 |
| ②3年目のフォローアップ研修       | 3名       | 通年実施 |
| ③主任等自己啓発研修（全体研修を兼ねる） | 4名       | 2日間  |
| ④保護者会学習会（成年後見制度について） | 入職3年以下対象 | 5名   |

入退寮一覧

(昭和 52 (1977) 年 10 月 1 日 - 平成 28 年 (2016) 年 3 月 31 日現在)

入所先	人 数	退所先	人 数	退所時就労状況					
				一般	福祉	無			
家 庭	276	G H	275	271	4				
児 施 設	63	家 庭	117	62	22			33	
障害者支援施設	48	自 活	11	6	2			3	
養護施設	40	職 場 寮	4	4					
授産施設	3	更生施設	39					39	
一時保護	7	授産施設	1		1				
G H	14	救護施設	1					1	
職 場 寮	9	精神病院	5					5	
自 活	9	そ の 他	1					1	
精神病院	5								
そ の 他	6								
合 計	480		454	一般	343	福祉	29	無	82

その他内訳 入寮 6 (自衛隊・医療少年院・他通勤寮 2・矯正施設・生活保護施設)  
退寮 1 (死亡)